

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【98号】2019年 1月

東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL: 03-3383-7800

継続する支援

被災地、被災者をずっと応援していきたい。しかし、時間の経過とともに少しずつ記憶から遠ざかっていく事が否めません。また、自然災害がこれだけ頻繁に起きていることから、日本中いや世界中に被災地と呼ばれる地域が増えていくと、なかなかその事を留め置くことが難しいことも確かです。コープ災害ボランティアネットワーク（以下、CO 災ボ）の会員が、様々な団体と連携して継続的に取り組んでいる活動を振り返り、次につなげていきたいと思えます。

◆継続して取り組んでいる支援◆

来らっせしらさぎ



2012年から続く中野区社会福祉協議会の寄り添い支援事業で取り組む「来らっせしらさぎ」のお手伝いに毎週CO 災ボ会員2名が参加しています。被災された方々と地元地域の方々の交流が続いています。

三宅島年末おそうじボランティア



12月22日の三宅島は、強い雨、その雨の中でもみんなで協力し作業をすすめました。

「三宅島年末おそうじボランティア」三宅島の独居老人宅の大掃除活動を通して2005年から始めた企画。今年度は、2018年11月22日から24日と12月21日から23日の2回企画でした。CO 災ボ会員の参加は7名。島に残る噴火災害の様子を見て、その当事を思いながら、島の方々との交流を続けてきました。

《参加者の感想（初参加者）》抜粋

◆以前からこの活動を知っていましたが、なかなか参加できず、今自分にできることは…と考え、応募しました。当日は雨天でしたが作業決行。カッパを着ての草刈り、休憩時は交流タイム、みなさん話題豊富、草刈り機担当の方は元村長さんでした。参加のメンバーは、徐灰の時から活動されている方から今回初参加の方とさまざま、新しい参加が広がることで次へのつながりになればと思います。約20年に1度の噴火の繰り返しということで、次の噴火はいつ？と気づかされ、この活動を継続していくことが次の備えになると感じました。

◆現地ボランティアの方が主導して行なえた。雨がひどく休憩を取ることも度々だったが、東京のことを聞いてくれたり、だじゃれを言って笑わせてくれたり、楽しく作業できるよう気を配ってくれました。交流会でのスライド上映や、島一周のツアーで三宅島での暮らしや復興の様子が少しわかった。

灯りのつどい

「灯りのつどい」は、阪神・淡路大震災のメモリアル企画で2000年から開催しています。今年も2019年1月12日に東京国際フォーラムにて開催されました。他団体のブースでは、パネル展示や煙体験テント、防災クイズなどが行なわれ、東京都生協連とCO災ボは、炊き出し訓練も兼ねて、甘酒を提供しました。



午後5時46分「黙禱」あの寒い朝を思い出します。



CO災ボ会員が炊き出し用大釜を設置（灯油使用）



パネルを見ながら、甘酒を飲みながら、1.17を振り返ります。今年も、発災から24年、あの日知らない若者もたくさん参加してくれました。語り継ぐことで、風化を防ぎ減災につなげていければと考えます。

◆2018年度の主な取り組み◆

2018年7月西日本豪雨募金活動を東京災害ボランティアネットワークの呼び掛けで東京都生協連が取組み、CO災ボ幹事会も協力しました。



練馬駅前での募金活動



中野駅北口広場での様子

各生協でも支援活動の取り組みや、防災・減災活動が活発に行なわれています。CO災ボで身につけた知識を、一つ一つ所属生協や地元地域の活動に積極的に活かしてください。事務局では、「まち歩き・マップづくり」などの出前講座や各学習会に関する情報などを会員のみなさんに提供しています。また、みなさんが地域や生協で取り組んでいることがありましたら東京都生協連CO災ボ事務局までお知らせください。